

平和へのメッセージの30知覧 第32回スピーチコンテスト

いのちの尊さ、平和の大切さのメッセージを発信

8月15日、第32回スピーチコンテストが無観客、ライブ配信で開催され、小学生の部の平和作文コンテストで優秀賞に選ばれた折田遥月^{はづき}さんの作文を原文のまま紹介します。



【小学生の部】
平和作文コンテスト 優秀賞
折田 遥月 さん
(霜出小学校 6年)

「私も生きぬいて平和を守り続けたい」

母から聞いたことがある。私の祖父の体験を。そう祖父は、二十代前半の二年間、兵隊として東南アジアへ戦争に行った。じゅうを持ち、山の中を歩き回った。十分な食料も

与えられず、空腹とも戦っていた。そう祖父も人を撃って殺したし、自分も撃たれた。仲間もたくさん殺された。

そう祖父には、忘れてたくても忘れられないことがある。それは、目の前で親友が撃たれ、殺されたことだ。親友は、そう祖父と一緒に身をかくすための穴をほっていた。

「お前の穴もほっておくからな」

その直後、親友は敵の機関じゅうで撃たれ、息絶えた。幼いころに両親を亡くし、家族に恵まれなかったそう祖父にとって、大事な親友だったに違いない。このとき、そう祖父は、親友の分まで何があっても生きぬこうと心に誓ったそうだ。

私は、そう祖母にも戦争中の話を聞いた。いつも明るく話をしてくれるそう祖母だけれど、このときは、目を閉じて、深く静かな声で話し始めた。

当時そう祖母は十八才。山川の学校にいて卒業間近だった。その日、空しゅうにあり、敵の飛行機が爆弾を落としながら攻めてきた。それに對して日本軍は、地上から飛行機を攻げきした。そう祖母は、敵の飛行機が撃たれ、墜落していくのを見ていた。落ちていく飛行機の中で、パ

イロットが死んでいるのも見えたそうだ。

「敵だけど、人が一人死んでいるところを見たら、複雑な気持ちになつたよ」

と、ため息をついて話してくれた。このときの空しゅうで、道路があちこちら破壊され、交通手段がなくなつたため、大きな荷物をかかえながら、山川から知覧まで歩いて帰ってきたそうだ。続けてそう祖母は、

「戦争中も戦争後も、みんな生活が貧しくてとにかく必死に働き、必死に生きてきた。そのときはつらく苦しかったけど、今こうやってたくさん孫やひ孫に囲まれて、ひいばあちゃんとは、とっても幸せだよ」と、にっこり笑って教えてくれた。

私は、母からそう祖父の話を、そう祖母から体験した話を聞いて、こわくて泣いてしまった。もし私が、目の前で人が死んでいくのを体験していたら、どんな気持ちになるのだろうか、考えただけでこわかった。

親友が亡くなったとき、何があっても生きぬこうと決めたそう祖父のおかげで今の私がいる。そう祖母のように、その当時の人たちが必死に生きぬいてきてくれたから、戦争もないおだやかな平和な時代を生きて

いられるのだ。だから、私も絶対生きぬこう。そして、平和を守り続けたい。戦争のおそろしさ、悲しさも発信していきたい。そう祖父やそう祖母の体験を、次は私が伝えていく番だから。

審査結果

中学生の部

最優秀賞 下戸 悠太郎 さん
三島片泊学園 9年 (三島村)

優秀賞 池畑 まり さん
鹿児島修学館中学校 1年 (鹿児島市)

特選 下鶴 晴翔 さん
陵南中学校 2年 (霧島市)

特選 高木 詩乃 さん
鹿児島玉龍中学校 3年 (鹿児島市)

高校生の部

最優秀賞 川崎 花笑 さん
鹿島高等学校 3年 (佐賀県)

優秀賞 井本 志帆 さん
九州文化学園高等学校 3年 (長崎県)

特選 園田 萌 さん
鹿児島玉龍高等学校 1年 (鹿児島県)

特選 山下 陽向 さん
セントヨゼフ女子学園高等学校 2年 (三重県)

一般の部

特選 幸田 拓也 さん
(福岡県)

入選 加地 紗彩 さん
(広島県)

入選 村橋 久美子 さん
(東京都)

入選 小松崎 有美 さん
(埼玉県)

～夏休み木工教室 in 南九州～

木製椅子を作り上げました！

8月4日、「夏休み木工教室 in 南九州」が、知覧平和公園で開催されました。

小・中学生約60人が参加し、かごしま森林組合・市職員の指導のもと木製椅子作りに挑戦しました。

炎天下の中で慣れない工具を使いながら、椅子を無事に作り上げることができました。

子どもたちは、木材にふれあう貴重な夏休みの思い出となりました。



▲暑い中、みんなと一緒に作りました

～第2回南九州市ふうりんの小径～

涼を演出する「ふうりんの音」！

7月17日～8月29日、南九州市観光協会は藤棚公園（知覧武家屋敷庭園内）と飯倉神社（川辺町宮）で風鈴のイベントを開催しました。

7月31日には、川辺高校の生徒がオンラインでイベントの様子を紹介し、南九州市の魅力を発信しました。

来場者は「今年は浴衣を着て出かける機会がなかったため、武家屋敷を浴衣で歩き夕涼みができてうれしい」と話していました。



▲風鈴の美しい音色を聴いて涼を感じることができました

～第40回高校生ふるさと大会～

ボランティア活動を行いました！

8月7日、知覧平和公園で高校生ふるさと大会が行われました。

本大会は市高校生クラブが中心となり毎年行い、今年は灯籠清掃や募金活動などのボランティア活動を行いました。また、当日に合わせて作成したマスクケースを市立図書館へ寄贈しました。

会長の福永真子さんは「今、自分たちができる活動を行い、少しでも地域の方たちの役に立てればうれしい」と話しました。



▲図書館へ手作りマスクケースを寄贈する高校生クラブ役員

～田代プロジェクト企画～

かかし作りに挑戦しました！

8月8日、旧田代小学校体育館で田代地区の親子などグループ10組が、かかし作りに挑戦しました。

完成したかかしは、道の駅やすらぎの郷にある田んぼアート周辺に飾りました。アマビエやオリンピックにちなんだかかしなど10体と招待作家の5体が飾られました。

9日には、かかしコンテストとマルシェが行われ、訪れた人々は、かかしの出来栄に感心していました。



▲田んぼアート周辺に手作りのかかしが展示されました

～南九州市建設同友会と連携してパトロール実施～
危険箇所をパトロール！

8月18日、南九州市建設同友会などにより、災害発生の見込まれる危険箇所などのパトロールが実施されました。

同会では、「災害防止に対する意識の高揚、災害未然防止、危険箇所の把握、災害発生時の進入ルートの確認」などを目的として、年に1回、市内の危険箇所を抽出しパトロールを実施しています。

今後も災害発生防止、災害発生後の対応などについて、同会と連携して災害対応に努めていきます。



▲危険箇所をパトロールする建設同友会の方々

～在宅医療介護連携普及啓発講演会～
あなたの想いを「家族に伝えておく」

7月18日、知覧文化会館にて、宮崎大学医学部板井孝彦^{こういちろう}教授による講演会が開催されました。

人生の最終段階における医療・ケア、延命治療への想いも人それぞれである。南九州市版想いをつなぐノートを活用し、コロナ禍だからこそ家族などと話し合うきっかけとなってほしいと講話されました。参加者からは、「自分らしく生きるために、家族と話し合いたい」などの感想が寄せられました。

現在、想いをつなぐ出前講座募集中。



▲講師から、あなたの思いを家族に伝えることの大切さを学びました

～峠坂洋昭さん(川辺地域)～
行政相談委員の活動を表彰

7月1日、行政相談委員の峠坂洋昭^{ひろあき}さんが、九州管区行政評価局地域総括評価官感謝状を受賞されました。

市内には3人の行政相談委員が配置されています。行政相談委員は、無償で市民と行政のパイプ役として活動しています。峠坂相談委員は、行政相談を毎月1回、市民交流センターひまわり館で行っており、今回、その功績が認められ表彰されました。

本市において、九州管区行政評価局地域総括評価官感謝状の受賞は、昨年度の福田相談委員に続いて2年連続の受賞となりました。



▲行政相談は、ひまわり館と知覧老人福祉センターで毎月1回実施しています

～後藤正義さん(知覧地域後岳北)～
春の褒章 黄綬褒章受章

8月19日、後藤正義^{まさよし}さんが、春の褒章において「黄綬褒章」の受章報告のため市長を表敬訪問されました。

後藤さんは、鹿児島県茶生産協会会長や南九州市茶業振興会長を務め、50年の歴史を誇る「知覧銘茶研究会」発足時からの会員として日本一の茶づくりのために各種茶品評会に出品し、農林水産大臣賞を3回受賞、知覧茶の銘柄確立に貢献しました。

市内のお茶銘柄を知覧茶に統一するなど、ご尽力されたことが評価されました。



▲春の褒章において「黄綬褒章」を受章した後藤正義さん(左)